



令和 7 年 9 月 5 日
道路局国道・技術課
国土技術政策総合研究所

道路をよりよくするための技術研究を追加で 3 件採択します ～「道路陥没の被害軽減に資する技術研究開発」募集の審査結果について～

令和 7 年 8 月 29 日に開催した第 55 回新道路技術会議において、令和 7 年度から 3 年以内で道路陥没の被害軽減を目指す研究課題を審査し、新たに 3 件を採択することとしました。

国土交通省道路局では、「学」の知恵、「産」の技術を幅広い範囲で融合し、道路政策の質を一層向上させるため、平成 16 年 10 月より新道路技術会議（委員長：那須 清吾 高知工科大学 経済・マネジメント学群 教授）を設置しています。

令和 7 年 5 月 20 日から令和 7 年 6 月 30 日まで、令和 7 年度から取り組む技術研究開発の追加募集を実施したところ、8 件の応募がありましたが、新道路技術会議による審査の結果、別紙の 3 件を採択することとしました。

今回採択された各技術研究開発の課題は、新道路技術会議での審査内容に基づき、実施内容の調整等を行った上で、令和 7 年度の技術研究開発を進めていただくことになります。

会議内容の詳細は、国土交通省道路局「道路政策の技術研究開発」のウェブサイトに掲載しています。

（国土交通省 HP：<https://www.mlit.go.jp/road/tech/council/kako.html>）



<問合せ先>

（新道路技術会議について）

道路局国道・技術課 本村、東川（内線 37862、37866）

（代表）03-5253-8111、（直通）03-5253-8498

（採択課題について）

国土技術政策総合研究所 小林、上仙（内線 3612、3312）

（代表）029-864-2211



「新道路技術会議」による審査の結果、採択された研究（研究テーマ名と応募時の提案概要等）は、以下のとおり。

<ハード分野>

研究テーマ名と提案概要		研究代表者名
研究テーマ名	深層空洞に起因する致命的道路陥没抑止についての技術研究開発	桑野 玲子 (東京大学)
提案概要	路面下空洞に起因する大陥没を抑止するため、深さ 2m 以深の空洞の探知技術を開発すると共に、検討対象地の深層空洞ポテンシャルを評価する。また、空洞ポテンシャルが高く潜在的な陥没危険が想定される箇所を対象に、万一陥没が避けられなくても前兆を認知しやすく、致命的崩落に至る前に対応可能となるような舗装構造を開発する。	

研究テーマ名と提案概要		研究代表者名
研究テーマ名	道路陥没リスクを最小化する逐次更新型地盤監視統合プラットフォームの開発	徳永 朋祥 (東京大学)
提案概要	地下埋設物や地下構造物の老朽化などによる道路陥没リスクを最小化するため、空洞探査で課題となっている深度 3m から数 10m までをカバーする複数の調査技術と地盤情報を統合解析し、モニタリング結果を参考に陥没リスクを逐次更新可能な「地盤監視統合プラットフォーム」を構築するものである。	

研究テーマ名と提案概要		研究代表者名
研究テーマ名	路面下空洞による地盤のゆるみ域とその拡大過程評価法の開発	林 宏一 (京都大学)
提案概要	道路路面下空洞によって生じる地盤のゆるみ域（空間分布）の拡大が道路の陥没や局所的沈下を引き起こす。本研究では、微動アレイ探査・DAS によるリニア微動アレイ探査に基づく位相速度解析により、地盤のゆるみ域とその拡大過程を評価する手法を提案する。	

今回採択された各研究課題については、新道路技術会議での審査内容に基づき、実施内容の調整等を行った上で、令和 7 年度の技術研究開発を進めていただくことになります。